

前回の富山県高齢者保健福祉計画等推進委員会(H22.8.2開催)の主な意見等(要旨)

<p>富山県は介護療養型施設が多いが、施設が多いということは介護に当たる家族が安心して働けるということでもあり、地域の魅力となっていると言える。</p>
<p>介護保険制度の見直しが検討されているが、今の見直しは20年後、30年後を拘束する。(施設の場合、耐用年数や借入金の償還年数。また人材養成も10年、15年後に成果。)間違った決断は20年後に響く。30年後の高齢者がどうなっているのかを考えることが非常に重要。</p>
<p>介護保険制度創設時から居宅優先原則があるが、居宅サービス水準は非常に低いため施設に依存せざるをえないのが現実である。しかし、財源の面からも施設依存は明らかにもう限界。今後、スリムで効果があるサービスシステムを今から構築していくことが必要。</p>
<p>日本では、ケア付き住宅が足りない。住まいの場でケアが届けられるような仕組みをできるだけつくっておくことが必要。</p>
<p>在宅では介護できない人のための施設は明らかに必要である。そこには、介護、老人医療などに関する専門的な知識が集積されているので、小規模施設を地域の拠点として、入所者のみでなく、地域の高齢者に提供できるようなサービスの体系をつくる必要がある。</p>
<p>地域包括支援センターは、高齢者のみでなく(障害者など)すべての人を対象する方向に持っていくことが望ましい。</p>
<p>富山県は施設給付の割合が非常に高いが、在宅重視の方向に持っていくことが必要。行政などでは従来から在宅重視と言ってはいるが、本気で対応していくことが必要。</p>
<p>高齢者や障害の方を地域の中で支えていくということが基本だと考えるが、それを支える人材確保が大きな課題。家庭教育、学校教育を含めた社会教育が必要ではないか。</p>
<p>「地域包括ケア体制」については、地域に担い手が確保できるのかが課題である。 この「地域包括ケア体制」においては、「軽度の方は、在宅において、地域の見守りで対応する」という考え方になっている。しかし、特に認知症の方は、軽度のときにしっかりしたケアがなされれば重度化しないが、地域でしっかりとケアをする担い手がいない場合、重度の方が増えてしまうことになるのではないかと。また、お金のない方たち、本当に困っている高齢者や家族の方たちは逆に切り捨てられていくのではないかと不安がある。</p>
<p>所在不明高齢者の問題について、30年間行政が知らなかったという話があるが、例えば医療保険を長期使っていない人を調べるなど手段はあるはず。行政はひとりひとりをきちんと見ていく必要がある。しっかり仕事をしてもらいたい。</p>
<p>(高齢者等生活意識実態調査について)富山県は女性の就業比率がかなり高い。高齢者本人だけでなく、家族がどういうふうに生き活きと生活するかということも非常に大事な観点。 また、高齢者は決して弱いだけの存在ではなく、仕事やボランティア活動、介護・介助をしている場合もある。本人がいかに元気で生き活きと暮らしているか調査するとよいのではないかと。</p>